令和４　年度　　幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日	令和5年2月25日

法人名	園　名
学校法人織田学園	おだ認定こども園

まとめ　　全体平均　4.06

第2章第2節 乳児期の園児の保育	保育教諭は常に情緒が安定し、ゆったりとした雰囲気の中で子どもと関わっている。子どもの要求や心情の変化に丁寧に対応していることで子どもとの愛着関係が築かれ生活リズムの安定につながっている。子ども一人ひとりが自分のペースで自発的な行動が保障され育まれている。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	人的環境と物的環境が大きく影響するこの時期に応答的な関わりを大事にしてきている。子ども自身が困難な場面においても保育教諭の支えや見本となる方法を伝えていくことで、言葉や表現力を獲得している姿があった。気持ちを言語化することで相手に受け止めてもらったことが実感でき、相手の言葉を聴こうとする姿が増えてきたことは、コミュニケーション能力の育ちの基礎となっている。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	幼児の領域ごとの評価はコロナ前の実践と現状との違いから全体的に低くなっていると考える。この状況の中でも工夫してできることを考えていくことが大切だと認識している。自分たちの取り組みに対しての評価を子どもの育ちを通して確認するために子どもの遊びの読み取りが核になり、このことが幼児理解にもつながっていくので来年度の課題にもしていく。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	１歳以上３歳未満における教育及び保育では、この時期にふさわしい生活や遊びを通して十分に心を動かす体験ができるように、保育を展開している。主体的に生活を営めることで、できたことへの達成感や、上手くいかないとき、困難に立ち向かうために粘り強く取り組んだあとの達成感が味わえるように配慮した。
第3章 健康及び安全	専門職員との連携を密にしながら、保護者のニーズにも応答的でいることを大事にしている。安全安心が基盤としながら園児の自発的な活動を促進するためには、保育教諭間の協力（学年を超えて）子どもの見守りや園児の理解を深めていくことをさらに実行していきたい。
第4章 子育ての支援	コロナ禍での２年間で一番影響を受けた領域でもある。保護者アンケートからも課題を受け取り改善できるところは速やかに対応している。今後も基本的な感染対応をしつつ、在園保護者や地域のニーズを柔軟に読み取り、貢献できるように努めていきたい。
第5章 職員の資質向上	職員一人ひとりの良さや強みを引き出し園全体の力に反映できるような人材育成を目指し職員の質の向上につながるように取り組んでいる。コロナ禍の中で外部研修が少なくなり、専門性を学ぶ機会の確保が難しい一年であった。職員の質の向上のためにはキャリアパスの位置づけを明確にしていく必要があると考え、法人本部との連携を強めていきたい。
総合	自己評価が低くなっている3つの内容（3歳以上児保育、子育て支援、職員の資質向上）は、やはり新型コロナウィルス感染症の影響を大きく受けていることが起因と考える。以前のような活動や研修の実施は難しくなっているため今後も工夫しながら柔軟に計画を立てて、こども達の最善の利益を追及していくようにしたい。一方で乳児保育については、自己評価が上がりこども園としてはとても頼もしい結果となった。日頃から気を付けている丁寧で受容的な保育がしっかり根付いていくように線で繋がっていく保育を継続していく。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	5.00
「3歳未満児保育」	32	4.25
「3歳以上児保育」	53	3.53
「教育保育の配慮事項」	15	4.87
「健康・安全」	22	4.27
「子育ての支援」	16	3.75
「職員の資質向上」	9	3.56
計	162	4.06

データグラフ

